

読み札	絵札	解説
<p>玉原高原の宝庫</p>		<p>玉原は迦葉山の北側にある。日本海型ブナ林の中、標高 1200m の台地に大小 4 つの湿原があり、小規模だが水芭蕉など湿原植物が多く「小尾瀬」ともいわれている。昭和 56 年 (1981) 玉原発電所とダムが完成。自然に囲まれた観光地として賑わいを見せている。</p>
<p>荘田の宮の乳いちよう</p>		<p>荘田は井土上町の古名。沼田氏発祥の地として、かつてはこの地域の中心であった。荘田の宮は諏訪大神等を祀る神社である。境内の御神木の大公孫樹には「こぶ」があり、この皮を煎じて飲めば乳が出るといわれ、「荘田さまの乳いちよう」と呼ばれている。指定時は、目通り約 10m、高さ約 25.85m。</p> <p>昭和 27 年 (1952) 県指定天然記念物</p>
<p>生枝獅子舞 平出歌舞伎</p>		<p>生枝獅子舞は、城主真田伊賀守より鬼門除けとして三面の獅子頭を賜ったことに始まり、生枝村の長子相伝の秘技として伝承されてきた。</p> <p>平出歌舞伎は、江戸時代中期から伝わる地芝居、又は農村歌舞伎の流れをくむといわれている。一時は衰退したが、復活し継承されてきた。</p> <p>生枝獅子舞は昭和 57 年 (1982)、平出歌舞伎は平成 12 年 (2000)、白沢村指定重要民俗文化財。同 17 年 (2005) に市指定重要無形民俗文化財</p>
<p>川田の生まれ 書の大</p>		<p>生方鼎齋は屋形原町篠尾の修験篠生院の廣弁の子として生まれ、大間々町田部井家に入婿し書を習った。後に江戸へ出て、巻菱湖に師事し、格調高い書風で一家を成した。江戸時代の通貨「天保通宝」の文字は鼎齋の書である。水墨の梅竹など巧みに描き、また梁川星巖に漢詩を学び、自らも教えた。安政 3 年 (1856) 正月 58 歳で亡くなった。萩原賢和・高橋不可得とともに、利根の三筆という。</p>
<p>利根の総鎮守 榛名様</p>		<p>榛名神社は榛名町にあり、古くから倭建命は滝棚の原に、菅原道真命は今の社地に祀られていた。享禄 3 年 (1530) 沼田万鬼齋頭泰が鞍打城を築くに当って倭建命を今の社地に移し、榛名山より埴山姫命を迎えて三神を一社に合祀し、榛名神社と称し、以後利根沼田の総鎮守と呼ばれる。本殿は真田信幸 (信之) の奉納によるものといわれ、扉の上に六文銭が刻まれている厳粛な建造物である。</p>